

考え



生まれたからには
仕方ない。

弦楽器イルカ  ⇒ 友人

今回から仕切り直して、俺（G）がU宛にしたための書簡を、ウクレレに詰めてネットの海に流します。以前、思いつきで書いた「空に宛てた手紙」をここでやることになるとはね。さて、それでは「考えるウマシカ 空メール編」を久々に始めましょう。

前回から今日まで時間が空いたのは、Uがちょっと時間取れなくなったってこととはあんまり関係なくて。書きたいことはいっぱいあったけど、俺がわざわざUに送る意味を感じられない手紙だったから。

溜め込んでた言葉も前回までで清算できた気がしたし、身の回りの出来事もいろいろ一段落して、急に憑き物が落ちたようにフィクションを読み書きする気力がなくなってしまった。わざわざ今さら人が作った嘘をありがたく出迎るのがアホらしかったし、俺が嘘を書くのもきつかった。

ちょうど赤ちゃんポストのドラマが議論になってるけど、そういう問題提起ならドラマじゃなくて同じ時間使ったドキュメンタリーを制作してほしい。現実の問題をわざわざドラマに焼き直す二度手間や、毎週観る時間ももったいないと思う。

表現の自由があるなら抗議の自由もあって、その議論から新しい提案が生まれるならまだしも、「世間の話題になるだけで価値がある」って炎上商法が流行してるから、反対も賛成も結局、同じ神輿を担ぐハメになったりする。

そういう意味で、今シーズンのドラマで俺が目撃したいのはやっぱ『天誅 闇の仕置人』だね。日ごろドラマ観る習慣は全くないけど、これ下手したら大化けするよ。ショムニ以来のフジの顔になるね。とにかく主演の女優の顔がすごい。説得力半端ない。無名の初主演だけあって、（タイムスリップして現代に来た）忍者の人殺し感と、「このドラマ当てなきゃあたしに明日はない」って切迫感がうまい具合にリンクしてる。脇を固める役者も、ピン子、京本、柳沢慎吾、三ツ矢雄二と来たら、もう飛び道具のみのキャスティングでしょ。この五人がズラッと並んで必殺やるワケだから。そんで三ツ矢の役名がミツ子って、マツコとミツくつつけちゃった日にはあなた、もう真面目にやる気永遠に0じゃん。というワケで録画予約したよ。これ大爆発か途中で打ち切りかどっちかだよ。でももしこれ打ち切られたら、日本のフィクションと主演女優はお先真っ暗だね。そんぐらい来るよ、これは。

さて、『永遠の0』が戦争賛美か反戦か、右か左かは、観る人の立場で変わる議論だから、そこに火を起こそうが消火しようが、所詮炎上商法の水掛け論にしかならないと俺は思う。とりあえず国を良くしたいって意味では右も左も「愛国」だし、あの作品が「エンタメ」なのは間違いなから、「愛国エンタメ」くらいでくっつきゃいいでしょ。

「お国のために戦ってくれてありがとう。過去のあなたたちのおかげで、現代日本人がいます」って感謝して、そこから過去の戦争の意味を問い直し、やっぱ日本人は素晴らしいって結論もって行きたい人達がいて、逆に異を唱えたい人たちもいるのは知ってる。

でも、それはどうでもいい。俺がこの作品に気乗りしない理由もそこじゃない。

だって、今でしょ？ 今なんでしょ？ みんな今今言ってるんでしょ？ だったら過去の日本兵より先に、例えば今「お国のために」爆発した原発に特攻して、命懸けで被曝してる作業員が日々たくさんいるのに、俺も含めた国民はそこに全然敬意を払えてないって自覚があるワケじゃん。しかも作業員の待遇は過去の兵隊同様に最悪、志願者も減ってる現実があって、それを改善できるかは今の国民の責任なんだから、回り道して過去の戦争に逃避してる場合じゃない。

「過去の戦争を知らない世代に読んでほしい」「今の時代がいかに恵まれてるか、現代人は自覚してほしい」ってあなた、それ廃炉作業員に向かって真顔で言えますか？ 今、お国のために命を散らしてる人間を目の前にしておいて、逆にあんたはそれを無視してどこ見てんのさって、ミツ子もドラマで言ってたよ。妄想だけど。

でもわかってるんだよ。過去の特攻に観客が涙を流すのは、過去は変わらないし、自分に直接の責任がないから。だから原発の特攻作業員が注目される日も、すべてにかたがついて、国民に直接の責任が及ばなくなった数十年後だろう。しかもゴキブリみたいに利権が必ず絡むから、貧乏人同士を前線で殺し合わせたり原発に特攻させて、権力者が後方で富を得るって図式はどこまで行っても未来永劫変わらない。

ただあの作品のラストは、主人公が特攻に成功しようが逆に撃沈されようが関係なく成立する、ってことは少し意識したほうがいいと思う。どっちでもいいラストで、作者はカッコいい死に方を選んだし、そのカッコ良さの積み重ねがお涙頂戴エンタメの正体だから。（っても、原作も映画も観ずにネタバレサイトから得た知識のみでこれ書いている俺も俺だ。まあネタバレサイトもすごくよく出来てたし、感涙モノだったから結果良しじゃない？）

その点から宮崎駿の発言を勝手に超解釈すれば、「戦争で零戦がカッコよく特攻に成功するような話」が彼はキライなんだろう。

だって本当の戦争は水木しげるの戦記まんがみたいに理不尽で泥臭くて、クソと性欲と食欲まみれでみみちくて、そもそも映画にして泣かすような話じゃない。

実際の廃炉作業だって、反社会的勢力のしのぎが絡んだ話とか、行き場のないドン詰まりの生活してる人たちの話がいくらでもあるはずなのに、それが全然日々のニュースに出て来ない。

この国のそういうキレイごとに対して、泉谷しげるはあの紅白で怒ってたと思うんだけど、どうせなら原発前で作業員に向けて歌えばよかったのかもしれない。彼は「俺のボランティアは偽善で売名だから、お前ら、俺をもっと有名にしろ。そしたら俺はその力でもっともっと思いきり偽善する」って行動してる人だから。そんで国民を代表して作業員に向かって「国民がクソだから、迷惑かけてごめん。いつもありがとう」って土下座パフォーマンスすれば、金爆の土下座と繋がってうまくオチたかもね。まあ絶対無理だけど。

俺が今戦争や廃炉作業でお国のために死んで、それを後世の人に「ありがとう」ってひとくくりで感謝されて泣かれても、うんざりした恨み言しか出てこないよ。「もっと長生きしたかったのに、後方の金持ちは幸せに生き残りやがって。あいつらが俺の代わりに死ねばよかった」くら

いに思うだけだ。

この国にはたくさんの自殺者がいる。その何割かもまた、日々繰り返される経済の戦争によって追い詰められた兵士なのかもしれない。彼らは自殺へ特攻することで自分を脅かす権力に捨て身の抵抗をしてるのかもしれない。そしてその権力を支えてるのは結局いつの時代も、俺みたいな庶民を含めた国民一人ひとりだ。

そういう自覚があるから、俺はあの作品に気乗りしない。

ところで『風立ちぬ』も『色彩を〜』も、結局完全なフィクションではなかったと俺は思う。いろいろ調べてみても、『風立ちぬ』は宮崎駿の自伝に近くて、「どんな困難な時代でも人は自分の好きなようにしか生きられない。次の特攻がお前の番でも全力で苦しんで戦って死ね」って話だったし、『色彩を〜』も過去の自作をコラージュしてまとめた作品だった。

それはなぜかって考えると、やっぱり今さら完全なフィクション=嘘を観客に提示して、そのために時間割かせるのはしんどいんだと思う。「これは半分自伝です」とか「過去作に立脚します」みたいな前がないと、現実から浮き上がってしまう感覚があるんだろう。

とまあ、他人の話をいろいろ書いてみたんだけど、これだけじゃ俺が書く意味がない。今までこの連載では己の未熟な想像力を限界まで駆使して、アイドル、作業員、ヘイトスピーチ等に斬新な王道を見つけて来たつもりだけど、次は何をテーマにしようかな。

ちなみに、斬新な王道って言葉はそもそも、ゲームについて書きたいと思って考えた。だって最新機種 Wii U でさえ、最初のソフトは30年前の横スクロール・マリオのリメイクだったから。技術ばかり進歩しても、人間が楽しめる範囲なんて結局横スクロール程度なんだと俺は思う。ちなみにそういう俺が直近でクリアしたゲームは、『セイント』って PS2 のドマイナーアクションアドベンチャーだ。家では未だに PS2 フル稼働だし。だって十分面白いしソフトが100円とかなんだぜ？ その昔64が発売されてもまだ、封筒に500円切手と青いディスク入れて「中山美穂のトキメキハイスクールに書き換えをお願いします」って手紙を任天堂本社に送ってた俺だけど、レトロゲームが好きなのは俺だけじゃねえと思うんだよ。ちなみにディスクシステムといえば『ヌイゼン』ってソフトが面白かったから有野課長やってくんねえかな、ってまあそんな話はどうでもいい。

というワケで次回は、俺が考える新しいゲームの話でもしようかと思う。わかんないけど。そういえばゲームの『天誅』や姉妹シリーズの『忍道戒』とかも PS2 くらいがちょうどいいと思うんだよね。どうせだからあのドラマもゲーム化してほしいな。ピン子操作して必殺を決めてみたい。

さて、今回はこんな感じ。どうかな？



考えるウマシカ～第急回『風立ちぬ』と紅白歌合戦～

<http://p.booklog.jp/book/82006>

著者：弦楽器イルカ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/82006>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/82006>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ